

## 近隣の自然の変化に触れる No. 5 / 本橋野草苑

「春, 真ただ中 In the middle of spring @Motohashi garden」

2022年4月19日

4月半ば、本橋さんの門の脇に立つ三葉ツツジが満開であった。庭の中にも何本もあり、青紫色の花が葉のない枝に咲いていた。その姿は実に清楚で、春のただ中にあることを実感する。

庭の地面に目を移すと、錨を想わせる花のイカリソウ（錨草）に釘付けされた。純白の爪（アンカー）と淡いピンク色のアンカー・ヘッド相まって美しい。さらに黄花カタクリ、アマナ、白雪ケシという珍しい花と赤紫の桜草（たぶん原種）に出遭えた。

ケマン草の仲間タイツリソウは、その名の通り鯛が釣り竿に数珠つなぎのように釣れた形をしている。ヤブイチゲは、シリーズNo.3で紹介したキクザキイチゲと同じ anemone の仲間、同じ時期にニリンソウ（二輪草）も見られた。芦花公園内には木花のヤマブキ（山吹）が満開だが、ここには草花のヤマブキソウがあった。日本原産である。お馴染みのレンゲソウ（蓮華草）が、田畑でなく庭に数株咲いていた。改めてその美しさに惹かれる。

数種のスミレ（堇）に出遭えた。（エイザンスミレ（叡山堇：*Viola eizanensis* Makino））。比叡山に生育することから日本の植物学の父・牧野富太郎によって命名された。

アメリカ スミレサイシン（アメリカ堇細辛）は、その名の通り北アメリカに自生し、日本でも道端や空き地で見られるなじみの堇。なお、細辛とは漢方薬に用いる生薬の一種。

タチツボスミレ（立坪堇）は、身近に見られる日本を代表する堇。立坪とは線引きに使う大工道具の墨いれ（に花の形状が似ている）に由来する（一説）。

ノジスミレ（野路堇）は、日当たりのよい野路に生えるごく普通の堇。スミレ色がピッタリ。

野草苑の訪問は楽しく、草花への好奇心が満たされる。